

Project ② 地域協働専攻 国際協働グループ	地域プロジェクト（2019 前期～2019 後期） 観光用やさしい日本語展示物作成プロジェクト
【メンバー】 [学 生] 堀井 菜七/大室 果瑚/眞鍋 昂弥/金谷 光/佐藤 佳大 [協力者] 佐藤 葵さん(北海道教育大学函館校4年) 相川健太さん(公立はこだて未来大学大学院生) 奥野 拓准教授/伊藤 恵准教授(公立はこだて未来大学) [担当教員] 伊藤 美紀/高橋 圭介	【背景】 函館の各観光地には案内板が設置されているが、日本語と英語で表記されている場合がほとんどである。また案内文には、専門用語や比較的難易度が高い語彙が使用されている。そのため、全ての人に分かりやすいとは言えない。また、外国人の中には、英語が母語でない人や、英語よりも「やさしい日本語」の方が理解しやすい人もいられる。「やさしい日本語」にはいくつかの定義があるが、佐藤(2009)では、「やさしい日本語」は、災害時の外国人被災者のための日本語を指し、日本語学習者が初級段階で学ぶ約2,000の語彙と単文を主とした単純な構文で構成されている。構文については、「難しいことばを避け、簡単な語彙を使う」「一文を短くして分かり書きにし、文の構造を簡単にする」などの11の規則が設けられている。 【目的】 函館を訪れた外国人観光客や、「南北海道の文化財」(http://donan-museums.jp/)を訪れた幅広い世代の人に、「やさしい日本語」を使って南北海道の文化財を知ってもらう。将来的には、小学校などの歴史教育に貢献できるようにする。 【概要】 「やさしい日本語」の特徴を活かして、観光や教育の分野で函館という地域に貢献することを目的とする。そのために、この地域プロジェクトでは、案内文を「やさしい日本語」に書き換える作業を行う。書き換えていくうえで、公立はこだて未来大学の奥野 拓先生、伊藤 恵先生、相川 健太さんと「やさしい日本語」についての情報を共有しながらプロジェクトを進めた。1年を通して計15個の書き換えを完了した。
【プロセスと成果】 「南北海道の文化財」(http://donan-museums.jp/)に掲載されている観光地の中から担当を決め、「やさしい日本語」への書き換えを進めた。このプロジェクトでははじめに庵(2016)や野田(2014)を読み、「やさしい日本語」に対する理解を深めた。同時進行で、書き換える際の基準となる「やさしい日本語書き換え基準13か条」の今年度版を作成した。この基準は、弘前大学人文学部社会言語学研究室「増補版「やさしい日本語」作成のためのガイドライン2013」、および、昨年度の同プロジェクトのリライト基準をもとに、今回の書き換えにおいて必要な項目を抜粋しまとめた。また、頻出語彙は、書き換えを統一するために「語彙リスト」を作成し、本プロジェクトメンバーと担当教員間においてgoogle driveで共有した。プロジェクト中に連携先の奥野 拓先生と相川 健太さんが来校し、「やさしい日本語」が函館の観光地の案内文に活用される必要性についての認識を共有した。実際に「やさしい日本語」への書き換えに対するアドバイスや指摘を受け、「やさしい日本語」の基準や難易度を再確認した。 前期は「やさしい日本語」の概念を理解し計5個の案内文を書き換えた。後期は計10個の書き換えを行った。案内文を書き換えるにあたって本文の記載が不明瞭で、書き換えが困難なところが数カ所あり事実関係の確認のため案内板が設置されている観光地訪問も行った。訪問活動を通して、本文中の俳句の現代語訳の照らし合わせを行い、不明瞭な記載の事実確認と訂正を行うことができた。	 

【地域プロジェクト中の様子】

【実際に訪問した時の現地の対象物】

【総括と反省・今後の課題】

前期は、「やさしい日本語」に関する文献を読み、「やさしい日本語」への理解を深めることが出来た。そこから学んだ知識や、先輩方が作成した書き換えや書き換え 13 箇条をもとに、各自で案内文の書き換えを作成した。その後、メンバーで話し合いながら書き換え語彙基準を統一させて案内文の書き換えを完成させることが出来た。

後期は、各自前期よりも多くの案内文を「やさしい日本語」に書き換えた。書き換えをしていく中で、新たに書き換え語彙リストの作成と、書き換え基準の更新を行った。その際、新たに書き換えの基準作成について話し合ったことで、案内文の書き換えの精度が前期に比べて上がったと思われる。また、話し合いだけでなく、書き換えをしている文化財がある場所に行ってみてもらうことで、より詳しく対象物への理解が深まった上で書き換える事ができたのも良かった。また、「南北海道の文化財」のウェブサイト上の原文に間違っただけの記述が何か所か見られたため、原文間違いリストの作成を行い、サイト構築をされている奥野先生に報告をした。これによって「南北海道の文化財」のウェブサイトの更なる改善に繋がれば良いと思う。

さらに、公立はこだて未来大学の奥野先生と公立はこだて未来大学院生の相川さんには、「南北海道の文化財」と同等の機能を持つサイトに「やさしい日本語」を追加できるようにした「プレビューページ」を準備していただいた。自分たちが書き換えた「やさしい日本語」の文をこのプレビューページに掲載することで、目に見える形でこのプロジェクトの成果を確認することができた。

今後の課題として、北海道教育大学函館校の留学生や外国人観光客、地域の小学校の児童を対象に、書き換えたやさしい日本語版が実際にわかりやすくなったのか調査する必要があると感じる。

(参考文献)

庵功雄(2016)『やさしい日本語—多文化共生社会へ』岩波新書

佐藤和之(2009)「生活者としての外国人へ災害情報を伝えるとき—多言語か「やさしい日本語」か」『日本語学』28巻6号 明治書院 pp.173-185

弘前大学人文学部社会言語学研究室「増補版「やさしい日本語」作成のためのガイドライン」

<http://human.cc.hirosakiu.ac.jp/kokugo/ejgaidorain.html>, 2019年12月20日アクセス(2020年1月17日HP閉鎖)。

野田尚史(2014)「「やさしい日本語」から「ユニバーサルな日本語コミュニケーション」へ—母語話者が日本語を使うときの問題点として」『日本語教育』158号 pp.4-18

【地域からの評価】

連携先の公立はこだて未来大学の奥野 拓先生から以下のコメントをいただいた。

「南北海道の文化財」に掲載されている観光案内板の文化財情報を「やさしい日本語」に書き換える取り組みは、函館の魅力をより広く知ってもらうために重要である。特に、今回のように書き換え文を再利用が容易なテキストデータとして作成することにより、IT による応用性が高まる。例えば、既存の観光案内板にビーコンを設置することにより、近づくスマートフォンに「やさしい日本語」の説明文を表示させるようなアプリの実現も可能となる。そのような応用の実現のためにも、高品質な書き換え文の作成を期待したい。

ポスター発表でも、多くの人に「やさしい日本語」について知ってもらうことができた。今後も、函館の魅力について、外国人を含めたより多くの人に知ってもらうためにも、「やさしい日本語」の質の向上を目指したい。

【その他】

年間スケジュール

前期	5月	「やさしい日本語」への理解を深める。
	6月	書き換え 13 箇条の確認。 案内文を、「やさしい日本語」に書き換える。 奥野先生と公立はこだて未来大学院生が来校し、プロジェクトの打ち合わせ等を行う。
	7月	中間発表
後期	10月	各自で案内文を「やさしい日本語」へ書き換える。
	11月	新書き換え語彙表の作成。
	12月	計 10 カ所の案内文を、「やさしい日本語」へ書き換えたものが完成。 新書き換え基準の作成。 原文間違いリストの作成。
	1月	公立はこだて未来大学院生と協力し、プレビューページを作成。
	2月	成果発表

付記

プレビューページは、「南北海道の文化財」(<http://donan-museums.jp/>) のコンテンツを改変して作成された。